

令和8年度 動物慰霊祭が執り行われました

動物愛護週間に合わせ、9月14日（月）、医学系総合研究棟アクティブ・ラーニング・スペース「未来と創造」において、動物慰霊祭が執り行われました。本式典は、教育及び研究に尊い命を提供し、研究に貢献された動物達の御霊に対し、哀悼の意を捧げる目的で毎年実施しているものです。

式典では、まず三木隆司医学研究院長より慰霊の辞が述べられました。「医学や医療技術の発展は様々な方の協力のうえに成り立っているといえるでしょうが、それは人に限られたことでなく、尊い実験動物たちの犠牲の上にも成り立っていることを忘れてはなりません。動物の犠牲なくして医学・医療の進歩発展があり得ないことを考えれば、私たちは人間として動物倫理の基本原則の3R Replacement・Reduction・Refinement について最大限配慮しながら実験にあたっていくべきであり、それが動物実験を行う者の責任と義務でもあると考えます。しかしながら、何より最も重要なことは動物実験に携わる各人が実験動物達への尊厳の念を忘れないことです。本学の医学医療の研究のために尊い生命を捧げた数多くの御霊に衷心より哀悼の意をこめて慰霊の辞といたします。」

続いて、古関明彦医学研究院附属動物実験施設長より慰霊の辞が述べられました。「医学医療の研究・教育のため貢献された諸動物の御霊に心より感謝の念を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。私たちは動物愛護に配慮しつつ3Rの原則を遵守し研究を遂行しております。近年新たに動物福祉いわゆる5F（5つの自由：飢え・渇きからの解放、疾病・けがからの解放、痛みからの解放、精神的ストレスからの解放、本来あるべき行動様式を取れること）に配慮した研究が求められています。動物愛護法の改正により動物虐待に対する罰則も厳罰化され、その対象には実験動物も含まれます。動物に過度のストレスを与えることのない様、動物福祉に配慮した研究を進めてまいります。」

その後、三木医学研究院長をはじめ亥鼻地区各部局長、事務部からの指名献花が行われました。

式典終了後の一般献花では、日頃動物実験に携わっている教職員や学生など関係者約150名が参列し、祈りを捧げました。

（文責：動物実験施設長 古関）



慰霊の辞を述べる三木医学研究院長



献花の様子（古関動物実験施設長）



動物慰霊之碑